

～北海道のさくらは 遅い開花を待ちわびて咲き急ぐ～

○さくら前線について

気象庁が毎年発表する「桜前線」は、平年では3月下旬に南九州からスタートし、5月20日ごろ道東へ到達します。前線の北上速度は、九州から東京までは1週間程度で到達しますが、東京から青森へ到達するには1ヶ月程度を要し、さらに、道内を駆け上がるのに20日ほどかかります。

これは、桜の開花はその土地の気温と密接に関係しており、北へ進むほど気温差が大きくなるためです。

なお、同じ地域でも標高が100m高くなると開花が2~3日遅れ、300mでは5日ほど遅れるとされています。

また、同じ地域ではチシマザクラよりエゾヤマザクラの方が遅く咲く傾向にあります。

○開花予想について

桜の花は、北日本では1日の平均気温が10°Cになると開花し始めます。「開花」とは花が5~6輪開いた状態となった時をいい、花が咲き揃ったときの80%以上の花が咲いた状態を「満開」といいます。

札幌管区気象台では、毎年4月の上旬、中旬、下旬に開花予想を発表します。根室の平年の開花日（過去30年間の平均値）は5月20日で、根室測候所前庭にあるチシマザクラが標本木となっています（標本木がチシマザクラなのは日本で根室だけです）

なお、開花から満開になるまでの日数は、関東で7日、東北で5日、北海道中部で3日というように、桜前線とは逆に北へ行くほど短くなる傾向があります。

○根室の「早咲き」と「遅咲き」のベスト3

早過ぎちゃった……①5/8(2002年) ②5/11(1990年) ③5/12(1972年)

遅くてゴメン……①5/30(1984年) ②5/28(1979年) ③5/27(1977年)

チシマザクラとエゾヤマザクラの見分け方

根室といえばチシマザクラが有名ですが、根室管内のさくらはチシマザクラとエゾヤマザクラが大部分を占めています。

さくらは交配し易く、チシマザクラとエゾヤマザクラの中間のものが多く見られますが、チシマザクラとエゾヤマザクラの特徴は次のとおりですので、十分観察して見分けてみましょう。

	チシマザクラ	エゾヤマザクラ
花	色 淡紅色（白っぽい）	淡紅色（ピンクっぽい）
	サイズ 花の大きさ 2~3 cm	花の大きさ 2.5~4 cm
	花柄 花柄に毛がある。	花柄に毛がない。
	花柄 花柄の長さが短いものが多い。	花柄の長さが長いものが多い。
	香り 花に香りがあるものが多い。	花に香りがない。
葉	花付 花が密集して咲くものが多い。	花が密集して咲くものは少ない。
	形 倒卵型	倒卵型~長卵型
	サイズ 長さ 3~8 cm	長さ 8~15 cm
	緑 葉の縁に2重のギザギザがある。 (二重鋸葉緑)	葉の縁にギザギザがある。 (鋸葉緑)
樹形	葉柄 葉柄や葉に毛がある。 時間が経過すると毛がなくなる。	葉柄や葉に毛がない。
	幹 幹が横に伸びる。	幹が上に伸びる。
	幹 根元から枝分かれが多い。	根元から枝分かれしない。
高さ	高さ 3~5 m	高さ 20 m
太さ	太さ 20~30 cm	太さ 50~80 cm

